

学校教育目標	○ 助け合う子 ◎ 考える子【重点目標】 ○ きたえる子	【目指す学校像】	○児童が、「学びがい」「やさしさ」「元気」を感じる学校 ○児童が、「自分らしさ」を発揮し、力強く前に進む学校
		【目指す児童・生徒像】	○すすんで学び、自分を高めようとする子ども ○自分を大切に、共に伸びようとする子ども ○心と体に関心をもち、たくましく生きようとする子ども ○自分のよさを自覚し、自己決定ができる子ども
		【目指す教師像】	○温かな教育をする教師 ○子どもを第一に考えて思考する教師 ○共成小の教育に貢献する教師 ○マネジメントできる教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	児童が自ら考え、活躍することができる、「分かる」「できる」を言葉で表すことができるよう、学習過程の改善を図る。	すべての児童が活躍できる、「分かった」「できた」喜びを実感できる授業をつくる。	「振り返り」の視点を示して、時間を確保し、児童が変容を実感できる授業を展開する。	4 振り返りの充実・・・90%以上	3	4 毎日「できた・分かった」と思った・・・90%以上	4	授業における振り返りは定着し、児童の変容を掴むのにも、児童自身の習得の実感にもつながっている。	学習したことをタブレットで再現できると、より復習の楽しさにつながると思う。	A	タブレットを使った振り返りやポートフォリオ化など新たな形も見られる。効果的な方法を校内で共有していく。
				3 振り返りの充実・・・80～90%		3 毎日「できた・分かった」と思った・・・80～90%					
				2 振り返りの充実・・・70～80%		2 毎日「できた・分かった」と思った・・・70～80%					
				1 振り返りの充実・・・70%未満		1 毎日「できた・分かった」と思った・・・70%未満					
豊かな心	児童が安全に、安心して通うことができる、保護者が安心して通わせることができる信頼される学校づくりを推進する。	自他を大切にできる気持ちや言葉を伝え合う場面を作り、互いに尊重し合う態度を育む。	タブレットなどICTを効果的・効率的に活用し、個に応じた指導を充実させる。	4 ICTを活用し、個に応じた指導ができた・・・90%以上	3	4 授業が分かりやすい・・・90%以上	4	児童がツールの一つとして自主的・主体的にICTの活用する場面が増えてきたのが大きな成果である。	活用の成果が自信につながり、学んだことに喜びを感じている様子が伺える。	A	教員間で情報共有しながら個別最適化された活用方法とその効果について検証・実践していく。
				3 ICTを活用し、個に応じた指導ができた・・・80～90%		3 授業が分かりやすい・・・80～90%					
				2 ICTを活用し、個に応じた指導ができた・・・70～80%		2 授業が分かりやすい・・・70～80%					
				1 ICTを活用し、個に応じた指導ができた・・・70%未満		1 授業が分かりやすい・・・70%未満					
豊かな心	児童が安全に、安心して通うことができる、保護者が安心して通わせることができる信頼される学校づくりを推進する。	自他を大切にできる気持ちや言葉を伝え合う場面を作り、互いに尊重し合う態度を育む。	思考ツールの活用により、考えをもたせ、伝え合う場を日常的に設定する。	4 伝え合う場を日常的に設定した・・・90%以上	4	4 自分の考えを伝え合うことが好き・・・90%以上	3	教員は、場面や方法を工夫しながら、児童が思いや考えを伝え合う場を設定しているが苦手意識をもつ児童もいる。	苦手意識をもつ子供たちの表現力を高めさせていきたい。	A	自由な手段で児童が自分の考えを表現することが出来るよう、選択肢を与えられるような学習展開を工夫していく。
				3 伝え合う場を日常的に設定した・・・80～90%		3 自分の考えを伝え合うことが好き・・・80～90%					
				2 伝え合う場を日常的に設定した・・・70～80%		2 自分の考えを伝え合うことが好き・・・70～80%					
				1 伝え合う場を日常的に設定した・・・70%未満		1 自分の考えを伝え合うことが好き・・・70%未満					
豊かな心	児童が安全に、安心して通うことができる、保護者が安心して通わせることができる信頼される学校づくりを推進する。	自他を大切にできる気持ちや言葉を伝え合う場面を作り、互いに尊重し合う態度を育む。	特別活動を通して、他者理解・自己理解を深める活動を展開する。	4 「あいさつ・返事」の指導に取り組んだ・・・90%以上	4	4 「あいさつ・返事」ができる・・・90%以上	3	教員が「あいさつ・返事」の大切さを理解し、しっかりと指導に取り組む、効果があった。	いつ学校へ来ても、元気なあいさつが返ってくる。すばらしい取組であった。	A	地域・家庭と連携したあいさつの取組を通して、安心・安全な環境づくりを推進していく。
				3 「あいさつ・返事」の指導に取り組んだ・・・80～90%		3 「あいさつ・返事」ができる・・・80～90%					
				2 「あいさつ・返事」の指導に取り組んだ・・・70～80%		2 「あいさつ・返事」ができる・・・70～80%					
				1 「あいさつ・返事」の指導に取り組んだ・・・70%未満		1 「あいさつ・返事」ができる・・・70%未満					
豊かな心	児童が安全に、安心して通うことができる、保護者が安心して通わせることができる信頼される学校づくりを推進する。	自他を大切にできる気持ちや言葉を伝え合う場面を作り、互いに尊重し合う態度を育む。	特別活動を通して、他者理解・自己理解を深める活動を展開する。	4 他者理解・自己理解を深める活動に取り組んだ・・・90%以上	3	4 自分も相手も大切にできる・・・90%以上	4	縦割り活動の復活により、他学年との交流も生まれ、より深く、深々とした言葉のかわる場面が増えてきた。	子供たちが、学年を越えた交流で、いろいろな活動を楽しんでいる様子が伺える。	A	引き続き、児童同士の言葉遣いや温かい言葉かけなどの取組を続ける。また、上の学年がモデルとなる活動も増やす。
				3 他者理解・自己理解を深める活動に取り組んだ・・・80～90%		3 自分も相手も大切にできる・・・80～90%					
				2 他者理解・自己理解を深める活動に取り組んだ・・・70～80%		2 自分も相手も大切にできる・・・70～80%					
				1 他者理解・自己理解を深める活動に取り組んだ・・・70%未満		1 自分も相手も大切にできる・・・70%未満					
豊かな心	児童が安全に、安心して通うことができる、保護者が安心して通わせることができる信頼される学校づくりを推進する。	自他を大切にできる気持ちや言葉を伝え合う場面を作り、互いに尊重し合う態度を育む。	児童のサインをキャッチし、情報共有の日常化を図り、組織的対応を行う。	4 日常的に情報共有を行った・・・90%以上	4	4 社会通念上のいじめの発生件数・・・0件	2	児童が相談できる窓口を広げてきたため、担任以外からも多くの相談案件を捉えることができるようになった。	安心して学校生活を送れるように、ぜひ適切な早期対応をお願いしたい。	B	SCやSSW、外部機関とも連携し、組織的対応を迅速にしている。誰にでも相談できる学校を目指す。
				3 日常的に情報共有を行った・・・80～90%		3 社会通念上のいじめの発生件数・・・1～5件					
				2 日常的に情報共有を行った・・・70～80%		2 社会通念上のいじめの発生件数・・・6～10件					
				1 日常的に情報共有を行った・・・70%未満		1 社会通念上のいじめの発生件数・・・11件以上					
健やかな体	児童が自分の心と体の健康に関心をもち、健康の保持・増進に関する意識を高め、よりよい生活習慣や食事について考え実践する態度を育む。	健康の保持・増進についての理解を深め、望ましい生活習慣や食事に実践的態度を育む。	体力向上週間や授業で児童の課題に沿った運動に取り組む、体力調査結果を上げる。	4 児童の課題に沿った運動に取り組ませた・・・90%以上	2	4 体力調査の数値が上がった・・・90%以上	4	運動が楽しいと感じる児童は増えていくが、体力調査の数値が低く、危機感をもっている教員が多い。	体を動かすときも声が出せると、より大きな運動量になっていく。今後の成果に期待する。	A	独自の効果検証など、学校として課題意識をもちながら体力向上への取組を継続している。
				3 児童の課題に沿った運動に取り組ませた・・・80～90%		3 体力調査の数値が上がった・・・80～90%					
				2 児童の課題に沿った運動に取り組ませた・・・70～80%		2 体力調査の数値が上がった・・・70～80%					
				1 児童の課題に沿った運動に取り組ませた・・・70%未満		1 体力調査の数値が上がった・・・70%未満					
健やかな体	児童が自分の心と体の健康に関心をもち、健康の保持・増進に関する意識を高め、よりよい生活習慣や食事について考え実践する態度を育む。	健康の保持・増進についての理解を深め、望ましい生活習慣や食事に実践的態度を育む。	「元氣アップガイドブック」の活用、「グッドモーニング60分」の取組により、児童自身の意識化を図る。	4 「元氣アップガイドブック」を活用した・・・90%以上	2	4 規則正しい生活習慣を意識している・・・90%以上	2	元氣アップガイドブックを有効に指導に役立てることができず、児童への意識づけも不十分であった。	この3年間ではみんなが運動不足を実感している。繰り返し家庭への働きかけも重視してほしい。	B	家庭とも連携した取組として体力向上を目指す。実効性のあるものにする。
				3 「元氣アップガイドブック」を活用した・・・80～90%		3 規則正しい生活習慣を意識している・・・80～90%					
				2 「元氣アップガイドブック」を活用した・・・70～80%		2 規則正しい生活習慣を意識している・・・70～80%					
				1 「元氣アップガイドブック」を活用した・・・70%未満		1 規則正しい生活習慣を意識している・・・70%未満					
健やかな体	児童が自分の心と体の健康に関心をもち、健康の保持・増進に関する意識を高め、よりよい生活習慣や食事について考え実践する態度を育む。	健康の保持・増進についての理解を深め、望ましい生活習慣や食事に実践的態度を育む。	SOSの出し方や心のもち方についての学習を継続し、相談できる体制・人間関係をつくる。	4 心のもち方を指導し、教師から声をかけた・・・90%以上	4	4 困ったときに相談できる・・・90%以上	4	日常の指導や特別の教科道徳においても援助を求めるとともに「学んでいる。5・6年生で「心の教室」を実施した。	子供が自信をもって安心して相談できる空気が広がっていると思う。	A	道徳や特別活動の取組を充実させ、児童の自己肯定感を高め他者も大切にできる心構えを高める。
				3 心のもち方を指導し、教師から声をかけた・・・80～90%		3 困ったときに相談できる・・・80～90%					
				2 心のもち方を指導し、教師から声をかけた・・・70～80%		2 困ったときに相談できる・・・70～80%					
				1 心のもち方を指導し、教師から声をかけた・・・70%未満		1 困ったときに相談できる・・・70%未満					
輝く未来	多くの人と、かわり合い、学び合い、認め合いのある温かな集団の中で、児童が自己のよさを実感し、自信をもって、自分らしさを発揮できる教育活動を推進する。	集団の中で、自分のできることを自己判断・自己決定し、行動する力を育む。	特別活動の充実を図り、児童が主体的・自己的に活動できる場を設定する。	4 児童が主体的に活動する場を設定した・・・90%以上	3	4 学級や行事で自分で考えて行動できた・・・90%以上	3	行事の実行委員、縦割り班の「なかよしタイム」の活動により、集団の中で主体的に考えて行動できる力が育まれた。	学年関係なく本当に仲の良い学校だと思う。現状を維持してほしい。	B	行事の実行委員制度を定着させ、高学年の児童の活躍を低学年のモデルとして、児童が主体的に活躍する学校にしていく。
				3 児童が主体的に活動する場を設定した・・・80～90%		3 学級や行事で自分で考えて行動できた・・・80～90%					
				2 児童が主体的に活動する場を設定した・・・70～80%		2 学級や行事で自分で考えて行動できた・・・70～80%					
				1 児童が主体的に活動する場を設定した・・・70%未満		1 学級や行事で自分で考えて行動できた・・・70%未満					
輝く未来	多くの人と、かわり合い、学び合い、認め合いのある温かな集団の中で、児童が自己のよさを実感し、自信をもって、自分らしさを発揮できる教育活動を推進する。	集団の中で、自分のできることを自己判断・自己決定し、行動する力を育む。	「ありがとう」をキーワードに、児童が相互に承認する活動に取り組む。	4 児童同士が認め合う活動に取り組んだ・・・90%以上	3	4 児童のよさを理解している・・・90%以上	3	互いを認め合う活動を教員がしっかりと行っている。自分のことを好きと回答している児童も前期より増えた。	ありがとううれい表情が、自分と相手に認めて次のステップに行きつけかけになると思う。	A	引き続き、児童が自分の良さを実感できる取組やその機会を数多く設け、自己有用感を高めさせていく。
				3 児童同士が認め合う活動に取り組んだ・・・80～90%		3 児童のよさを理解している・・・80～90%					
				2 児童同士が認め合う活動に取り組んだ・・・70～80%		2 児童のよさを理解している・・・70～80%					
				1 児童同士が認め合う活動に取り組んだ・・・70%未満		1 児童のよさを理解している・・・70%未満					
輝く未来	多くの人と、かわり合い、学び合い、認め合いのある温かな集団の中で、児童が自己のよさを実感し、自信をもって、自分らしさを発揮できる教育活動を推進する。	集団の中で、自分のできることを自己判断・自己決定し、行動する力を育む。	年2回のQUを活用し、学級や児童個々の状況に応じた指導を展開する。	4 望ましい集団作りを図る取組を行った・・・90%以上	3	4 学校生活が楽しいと感じている・・・90%以上	2	前期よりも楽しく感じている児童の割合が下がっている。アンケートや聞き取りにより、児童に寄り添い、丁寧に個別の課題の解決を図る。	学校は楽しいと思わない児童は10%減少させた。先生方の温かい心が伝わるよう地域も支援していく。	B	次年度は2回目のQUテストは全学年実施し、学級や教員に応じた講師の指導を全学級の学級経営に活かす。
				3 望ましい集団作りを図る取組を行った・・・80～90%		3 学校生活が楽しいと感じている・・・80～90%					
				2 望ましい集団作りを図る取組を行った・・・70～80%		2 学校生活が楽しいと感じている・・・70～80%					
				1 望ましい集団作りを図る取組を行った・・・70%未満		1 学校生活が楽しいと感じている・・・70%未満					